Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-10-14

兵庫県立高齢者脳機能研究センター（病院紹介）

山鳥, 重

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌, 9:183-184

(Issue Date)
1993-06

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007303

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007303

KOBE UNIVERSITY

病院紹介——

兵庫県立高齢者脳機能研究センター

所　長　山鳥　重
（39年卒）

兵庫県立姫路市に我が国では始めての痴呆研究に的を絞った医学研究センターが誕生しました．その概要をご紹介します．

設立の経緯ですが，昭和62年神戸大学医学部西塚教授を委員長とする委員会が「高齢化社会を迎え，重要な社会問題である，痴呆性老人増加に対する長期的対策のひとつとして，県立の医学研究機関を設置することが望ましい」とする主旨の意見書を提出しました．翌昭和63年この提言を受けて，兵庫医大三好教授を委員長とする委員会が「高齢者の医療研究施設」を設立すべきであるとする意見書を提出しました．

兵庫県はこの意見を尊重，昭和64年に県保健環境部の中に準備担当を置きました．平成3年にはこれを高齢者脳医療・研究センター設立準備室に拡充，痴呆の早期発見，病因解明，治療技術開発，実態把握，予防手段の究明などを目的とした，高度診断技術を備え，臨床研究を中核としたユニークで水準の高い研究センターの設立に向けた準備活動を本格化させました．

平成3年1月には現姫路循環器病センター南側隣接地に建物を着工，平成4年11月に竣工いたしました．平成5年3月27日に貝原知事出席の下，盛会裡にオープニングセレモニーを挙行，4月1日からスタッフが着任，組織として正式に発足いたしました．現在，全スタッフ一丸となって診療／研究開始に向けて準備を進めているところです．

6月15日に外来診療開始，21日より病棟活動を始めています．

センターの組織の概要ですが，管理部，研究部，付属病院から成り立っております．このうち研究部は企画情報科，基礎研究科，臨床研究科，画像研究科の4科からなり，全部で11の研究室で構成されております．付属病院は50床1病棟で，外来4診を予定しております．保険診療上の標榜科は内科，精神内科，放射線科，理学療法科ですが，対象がすべて痴呆患者ですので，この区別は制度的なものです．

診療対象患者は原則的に県下医療機関あるいは医療関係機関（保健所など）からの紹介患者に限ります．治療・予防のてがかりを得るためには早期段階での医療的努力が必須と思われますので，できるだけ早期痴呆の疑いある患者を紹介していただき，一カ月程度の入院で今後の方針を決定し，紹介医へお返しすることにしたいと考えております．

痴呆を呈する疾患は多様で，痴呆の実態を把握するには，まだまだ基礎データが足らないという大前提に立ち，診療部では痴呆の正確な状態像（認知障害パターン）の把握，痴呆の原因たる身体疾患の正確な診断，さらに中枢神経系，特に大脳における病変分布，あるいは機能低下領域の正確な把握につとめ，治療可能なものは治療を，治療不可能なものは治療の手掛かりをもとめて，長期的なデータベースを築いてゆく予定です．

研究方向は多岐にわたりますが，基礎研究科では神経病理研究室，神経薬理研究室の2研究室で病理／生化学的立場からの病因解明を進めます．

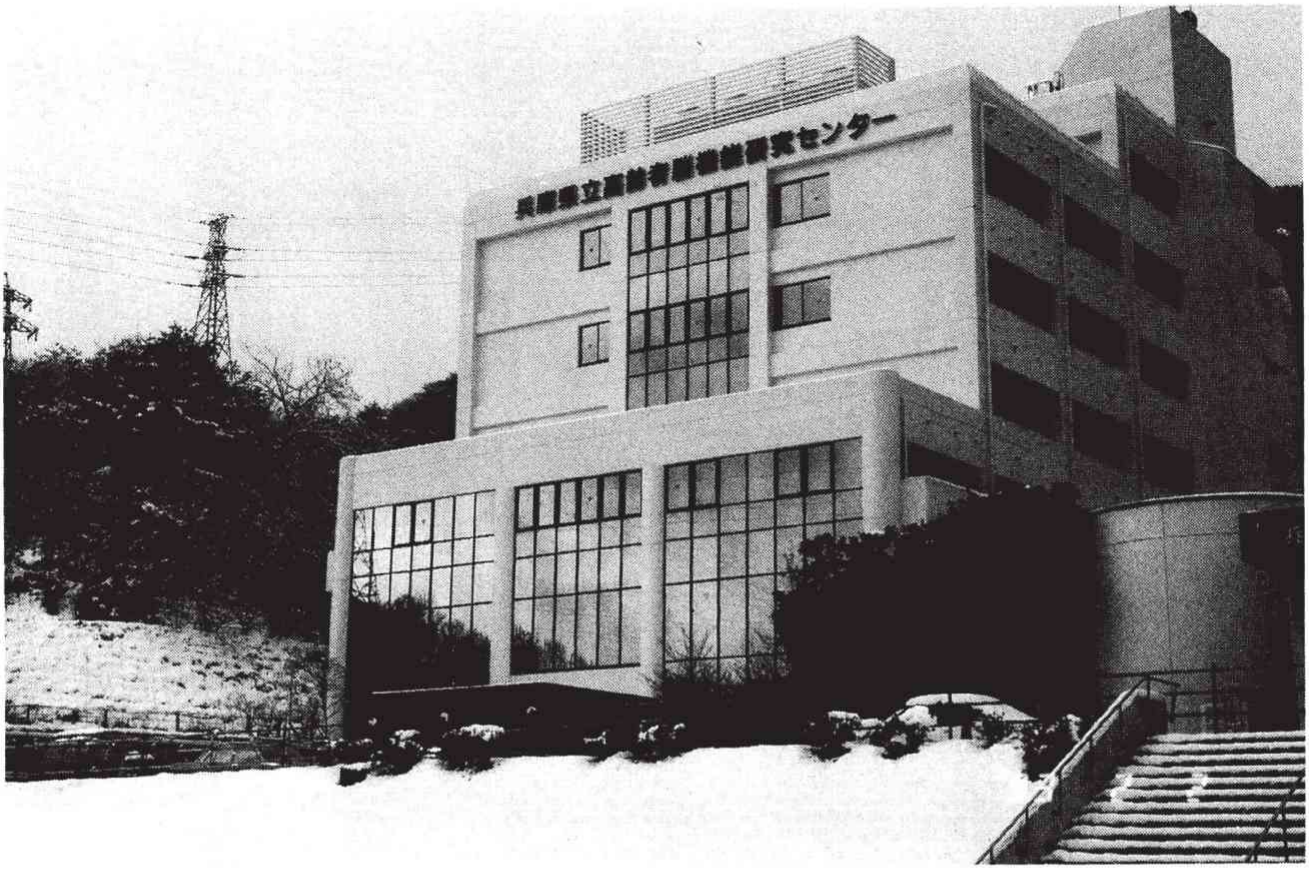
本研究センターの中核はなんといっても画像研究科です．まずPET研究室には県下初のPET（陽電子放出性コンピュータ断層撮影装置）が導入されます．陽電子放出性同位元素製造にはサイクロトロンが必要ですが，これには我が国では始めての陰イオン方式によるビーム取り出し効率のよい，英国オックスフォード社製サイクロトロンを導入しております．PETは形態変化のまだ明らかでない段階でも，ブドウ糖や酸素代謝の低下など機能的変化を捉えることができるため，早期の脳高次機能低下の検出に威力を発揮することが期待されます．核薬理研究室はこの陽電子放出性核種をもちいて作られる，各種自家性放射性薬物の精度管理，毒性管理や新しい薬剤開発を担当します．MRI研究室はGE社製1.5テスラMRIを備え，画像分析のほか，MR spectroscopyを用いて，脳代謝物質の変化などを研究する予定です．

臨床研究科は老年内科研究室，老年精神医学研究室，行動神経内科研究室，リハビリテーション医学研究室，神経心理研究室の6研究室からなり，それぞれ独自の医学方法論をもちいて痴呆患者の多面性を浮き彫りにし，治療・予防のてがかりを少しでも多く得ることが目的です．さらに臨床研究科では作業療法，言語療法

などリハビリ的アプローチや期待出来る薬物の薬効評価など，幅広い活動を展開してゆく予定です．

痴呆問題は医学的側面のみでなく，社会福祉・医療政策的な側面が重要です．この点について，われわれの研究センターが貢献できる部分はあまり多くありませんが，地域医療室が設置され，保健婦１名が配属されておりますので，県下関係医療機関からの痴呆の疑いある患者の受け入れ，退院患者・家族への援助や相談などが比較的スムーズに進められるものと期待しております．また県下市町村あるいは保健所の保健婦とも連絡を密にし，本センター退院後の患者の長期的動態についての資料を蓄積してゆく予定です．この蓄積にたって，将来は痴呆疾患についての県下全域のネットワークが構築できればと考えております．

目を全国に転じますと，秋田県に脳血管研究センター，東京都に老人総合研究所，神経科学総合研究所，精神医学総合研究所，国に精神・神経センター神経研究所，同精神保健研究所などがあって，既に活発に痴呆研究を行なっています．さらに国の長寿科学研究所も建設が日程に上がってきています．しかし，癌研究などに比べますと，まだまだ研究施設の数は少なく，体制も不十分です．兵庫県が全国にさきがけ，このような専門研究センターの設置に踏み切られた先見の明に対し，改めて深い敬意を表する次第です．

また，この陰には西塚泰美神戸大学医学部教授（特別），河野通雄同放射線科教授（特別），新光毅循環器病センター名誉院長(28年卒)，安井博和兵庫県理事(35年卒)，岡田安弘神戸大学生理学教授（37年卒），川村隆兵庫県保健環境部長（50年卒）など，神緑会諸先輩のなみなみならぬご尽力がありました．特に記して謝意を表したいと思います．

最後にスタッフですが，出来るかぎり全国的な視野で人選を進めてまいりましたが，研究部長に前田潔(46年卒)，基礎研究科長に高内茂（50年卒），臨床研究科長に森悦朗（52年卒），MRI 研究室長に北垣一（59年卒），PET 研究室長に石井一成（61年卒）が就任しております．今後の運営に関し，神緑会諸先生の格段のご指導，ご支援をお願い申し上げる次第です．